

### 平成27年度 第1回さくら投句会

投句数	177句
投句者数	111名
選者	対馬 康子氏（現代俳句協会副会長）
実施日	平成27年4月4日（土）

特選	花びらを追いかける吾子さくらいろ	安藤幸恵さん
選評	満開のさくらの下、吹く風に舞う花びらを幼子が無邪気に追いかける。その元気な笑顔も声も、明るい希望のようにさくら色に染まっている。さりげなくもとても幸せな瞬間が切り取られています。	
入選	揺れながらレトロ都電の花見かな	阿曾八重子さん
	ともだちとシダレざくらへしゅっぱつだ	葛西陽日和さん
	にわたづみの花筏吹く姉弟	小暮松枝さん
	しだれ桜風のかたちに吹かれけり	鈴木しおりさん
	初桜咲きし日わが子巣立ちゆく	高見清子さん
	サクラさくみどりのだいちきもちいい	西村心太さん
	春風といっしょに来たよ新学期	けしけし君さん
	花びらの地に着くまでの久遠かな	悠美子さん
	さくら咲ききみの未来が進化する	ラブちゃんさん
文字旧りし碑一つ花の下	若林清子さん	

### 平成28年度 第2回さくら投句会

投句数	166句
投句者数	125名
選者	対馬 康子氏（現代俳句協会副会長）
実施日	平成28年4月2日（土）

特選	枝垂れ桜家族がみんな中にいる	鈴木しおりさん
選評	ピンクの大きな傘のように枝垂れた桜が、家族の笑顔をやさしく包んでいます。お弁当を囲み花の下に楽しむお花見。「みんな中にいる」という短い言葉で、春の幸せなひと時が見事に切り取られています。	
入選	また一人異動の朝や花曇り	一色由美子さん
	はい一歩背中を押すのは桜かな	菊池良子さん
	オルゴールをきりきりと巻く桜冷え	鈴木しおりさん
	空に触れ溶け出しそうな桜かな	鈴木しおりさん
	花見坂鬼もまぎれて歌う宴	山田麻理さん

### 平成29年度 第3回さくら投句会

投句数	180句
選者	対馬 康子氏（現代俳句協会副会長）
実施日	平成29年4月8日（土）

特選	さくら好き幸せいっぱい深呼吸	阿曾八重子さん
選評	満開のさくらの下で思いっきりする深呼吸。笑顔が目には浮かびます。今は必ずしも希望に満ちた時代ではないかもしれませんが、そんな不安を明るく吹き飛ばす前向きさが「深呼吸」という言葉に上手く込められています。	
入選	さくらさくそのうらサクラもながれてる	荒少連田中さん
	暮るゝまで車座とけぬ糸桜	大越源一さん
	花づかれ都電の揺れにまどろみぬ	小川一夫さん
	花さいたシダレザクラがまりのよう	小林みのりさん
	鯛焼の餡尾びれまでさくら時	鈴木しおりさん

### 平成30年度 第4回さくら投句会

投句数	233句
選者	対馬 康子氏（現代俳句協会副会長）
実施日	平成30年4月7日（土）

特選	紅枝垂ベビーカーから手足伸び	鈴木しおりさん
選評	風に揺れる枝垂桜のピンクの花に触れようとして、小さな手足がベビーカーからはみ出して見えたのです。手だけでなく足も一緒に伸びたところが、いかにも元気の良い赤ちゃんです。明るい希望が伝わります。	
入選	碧眼もヒジャブも笑う花の中	一色由美子さん
	来る人も立ち去る人も糸桜	大越源一さん
	晴女上座に据へる花むしろ	坂内時子さん
	花の香も載せて届けし都電かな	望月崇さん
	風がふく風と桜がすもうとる	百瀬常海さん

### 平成31年度 第5回さくら投句会

投句数	311句
投句者数	235名
選者	対馬 康子氏（現代俳句協会副会長）
実施日	平成31年4月6日（土）

特選	桜の花降りそそぐのは君のかおり	池野上美恵さん
選評	満開となった桜が風に舞い散る。花びらにふと甘い香りがただよった。この「君」は目の前の恋人か、あるいは今はもう会えない大切な人かもしれない。明るくも少しせつなく、恩寵のように桜の花びらが降る。	
入選	余生ゆるぎ許すこと増ゆ夕桜	一色由美子さん
	人は笑いしだれ桜は酔っている	萩野清昭さん
	桜咲く走り回ればほほの色	みぞぐちゆうなさん
	葉桜もとても素てきな要素です	山崎ひかりさん
	それぞれの家族のかたち紅枝垂	鈴木しおりさん

### 令和2年度 さくら投句会

開催中止のため実績なし

### 令和3年度 第6回さくら投句会

※オンライン開催

投句数	167句
投句者数	57名
選者	対馬 康子氏（現代俳句協会副会長）
実施期間	令和3年3月23日（火）～4月16日（金）

特選	大声を出す寸前の桜かな	坂内時子 さん
選評	今年も一途なまでに満開に向かう桜の美しさでした。感嘆の声を出すのがはばかれましたが、ここでは桜そのものが大声を出すのです。「寸前」に、やがて散る花の運命のたかぶりが捉えられています。独特な感性です。	
入選	帰り路夜の桜の大人びて	加藤薫 さん
	落日の都電車庫入れ桜まじ	田中礼子 さん
	三分の一恋めいて桜餅	檜垣文 さん
	桜東風母校の門を娘とくぐる	草野道子 さん
	屋外灯つけつ放して朝桜	近江堇花 さん

令和4年度 第7回さくら投句会

※オンライン開催

投句募集

投句数	278句
投句者数	90名
選者	対馬 康子氏 (現代俳句協会副会長)
実施期間	令和4年3月15日(火) ～4月5日(火)

一般投票

投票数	66票
投票者数	66人
実施期間	令和4年4月25日(月曜) ～6月7日(火曜)

※特選除く入選7句の中から俳句のまちあらかわ賞を決定するため、一般投票を実施(作者コメント有)

特選	作品	夕桜吾より若き母と父	渡辺長二 さん
	作者コメント	薄闇の中を行く親子連れは、故人となった父母との観桜の日を、思い出した。	
	選評	夕方にながめる淡い桜の風情は郷愁を誘います。母と父の若く深淵とした姿を思い起し、自分も長く生きたのだとしみじみとした感慨です。家族の時間も桜のように移ろいます。今若い親子連れにもエールを送っている桜です。	
俳句のまちあらかわ賞	作品	桜の名まだ知らぬ子と桜見る	居並小 さん
	作者コメント	日本人ならば誰でも知っているであろう桜。でも、いつ桜を桜だと認識したのだろうか、ふと思いました。誰にでも、桜を桜と知らずに見た瞬間があるのだなあと感慨深い気持ちになって作った句です。	
	選評(投票者コメント)	・私も、桜の名も知らない幼い時から綺麗だなあと桜を眺めていたな、と思いを馳せることができました。 ・「まだ知らぬ子」と見る桜という情景が希望あふれて素敵でした。娘と見た桜の思い出と重なりました。 ・同感です。桜を桜と思わず…私にもその瞬間がありました。等	
入選	作品	桜咲く東京が好き人が好き	はつね さん
	作者コメント	友人を偲び今年も桜が咲きました。	
	作品	ゆくりなく遠出をしたる花見かな	破れ蓮 さん
	作者コメント	作者コメント無し	
	作品	花びらにふれたくて降りくる雨か	渋谷史恵 さん
	作者コメント	かそかな、ばらりばらりとした雨。まるで、桜の花びらにふれたくて空からやってきたような……。	
	作品	唇に花びらのせて君を呼び	伊藤一男 さん
	作者コメント	去っていく君を呼び止めようと、名を呼ぶと、花びらが唇に乗ってきて。	
	作品	訪ふ人も無くて山家の花浄土	松田素風 さん
	作者コメント	訪れる人もほとんどいない、忘れ去られたような過疎の村に咲く枝垂れ桜の周辺はまるで浄土を見るようです。	
	作品	枝垂桜今にも鯉の釣れそうな	木染湧水 さん
	作者コメント	池に向かって立派な枝垂れ桜が満開です。もう少しで水面に触れそうで、鯉がバクリと飛びつきそうに見えます。	

令和5年度(第8回) さくら投句会

※オンライン+当日投句

投句数	594句
投句者数	182名
選者	対馬 康子氏 (現代俳句協会副会長)
実施期間	令和5年3月15日(水)～4月10日(月)

特選	桜散る救ひをずっと待つてゐる	榎本佳歩さん
選評	それぞれの時代で日本の春を象徴してきた桜の花。今年はどういう桜だったでしょう。見事な満開のあと一斉に散る風情ははかないものです。それでも桜の木もそれを眺める人もまた、明日を信じて救いを待っています。	
入選	学校を統べる桜や風つる	田中礼子さん
	満開は既に淋しき桜かな	鈴木真理子さん
	雨に訳つけてみるなり夕桜	佐々木章人さん
	尾久の原どの子あの子もさくら顔	木の芽さん
	枝垂桜や地球に引っ張られる	野中泰風さん